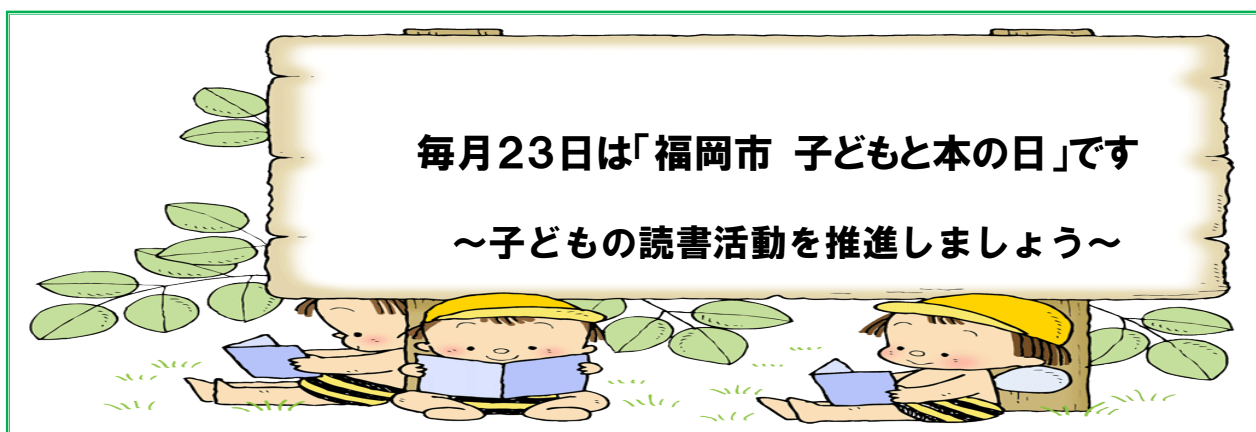




<令和6年度 小学生子ども読書リーダー養成講座>

福岡市子ども読書活動推進計画（第4次）においては、学校での「子ども読書リーダーの育成」が重点として挙げられており、各小学校と総合図書館が連携し、子ども読書リーダーを養成するとともに、子ども読書リーダーの活躍の場を広げていくようにされています。（『2 学校における読書活動の推進 <目標3>』）

そのような中、学校図書館支援センターでは、本年度も各小学校において、児童の個別端末を活用し、小学生子ども読書リーダーの育成ができるように、動画資料「小学校読書リーダー養成講座」を準備しています。委員会活動や学級活動等、教育計画に位置付けていただければ幸いです。

- 受講対象者： 5・6年児童
実施期間： 令和6年 7月～12月
実施方法： 動画視聴と実習
実施内容： 【講座1】 読書リーダーとは
【講座2】 図書館の使い方を友達に教えてあげよう
【講座3】 学校の下級生に絵本の読み聞かせをしてあげよう
【講座4】 POP 作成講座

※ 1講座の所要時間は、約30分

各学校において、図書委員会や学年・学級で取り組んでいただき、多くの小学生子ども読書リーダーの養成をお願いします。

図書館で『TRPG をやってみる』（第7回） 8月18日 日曜日 開催

TRPG とは、テーブルトーク・ロールプレイングゲームの略で、参加者が会話をしながら架空の世界を演出し、登場人物を演じ、共に課題を解決しながら物語を作り上げていく卓上の遊びです。ゲーム機等のコンピュータを使わずに行います。

ゲームの司会進行をする GM（ゲームマスター）とプレイヤーが、紙・ペン・サイコロなどを使って話を進め、専用のルールブックを元にシナリオを作り、キャラクターを設定することができます。

普段はテレビ画面でやるような RPG のゲームを、テーブルの上で紙とペンとサイコロを武器に喋りながら遊ぶゲームの一種です。

福岡市総合図書館でも、定期的で開催しています。次回は、8月18日 日曜日に開催です。興味のある方は、参加してみても、どうでしょうか。

※ 詳しくは総合図書館のホームページをご覧ください。

3月17日開催した 「図書館で『TRPG をやってみる』（第6回）」の様子
＜参加者：15名＞

- 初めて－11人 2回目－3人 3回目－1人
- 中学1年生－2人 中学2年生－4人 中学3年生－2人
高校1年生－2人 高校3年生－1人

参加した方々からは、「また参加したい」「とても楽しかった」等の感想が数多くありました。



＜ゲームに参加する中高生＞

市内の小・中・特別支援学校は、19日に終業式を迎え、8月26日（月）まで、長い夏休みとなります。子ども達にとっては、待ちに待った夏休み。

夏休み期間中、子ども達には、元気に、そして楽しく過ごして欲しいものです。

また、長い休みを利用して、少し長い読みごたえのある本の読書に挑戦したり、身の回りの自然を、図鑑を使って調べたりして、読書活動の幅を広げ、大きく成長して欲しいものです。

【須藤】





8月のことと人

8月2日 「学制発布の日」

1872年(明治5年)のこの日、学制が公布され、日本の近代学校制度が成立した。

全国を学区に分け、それぞれに大学校・中学校・小学校を設置することを計画し、身分・性別に区別なく国民皆学を目指した。

8月30日 「冒険家の日」

1965年、同志社大学の遠征隊が、アマゾン川源流からボート下りを成功。1970年、植村直己さんが、北アメリカ最高峰マッキンリー単独登頂成功。世界初の五大陸最高峰制覇。1989年、堀江謙一さんが、世界最小のヨットで太平洋単独横断に成功。これらは、8月30日に達成されました。これらのことをたたえ、冒険家の日に制定されました。

司馬遼太郎

(1923.8.7～1996.2.21)

大阪府生まれ。日本の小説家、ノンフィクション作家、評論家。代表作に『竜馬がゆく』『燃えよ剣』『国盗り物語』『坂の上の雲』などがある。『街道をゆく』をはじめとする多数の随筆・紀行文などを残している。

五味 太郎

(1945.8.20～)

東京都生まれ。日本の絵本作家。1973年に『みち』で絵本作家としてデビュー。現在までに400冊以上の絵本を手がけている。代表作として『さる・るるる』『みんなうんち』『きんぎょがにげた』等が知られる。

末吉 暁子

(1942.8.27～2016.5.28)

神奈川県生まれ。日本の児童文学作家。出版社に入社し編集者時代、佐藤さとるにすすめられて創作活動を開始。1975年『かいじゅうになった女の子』でデビュー。「ざわざわ森のがんこちゃん」の脚本を執筆。小学校の道徳の授業の教材としても使用される。

ダイアナ＝ウィン＝ジョーンズ

(1934.8.16～2011.3.26)

イギリス生まれ。児童文学作家。魔法をテーマとした子ども向けのファンタジー小説を得意とした。『魔法使いハウルと火の悪魔』がアニメ映画化(ハウルの動く城)され、日本でも人気のある作家となった。

図書館員のひみつの本棚 第219回

今月は、砂漠の王国を舞台にしたファンタジーを紹介します。

『漂泊の王の伝説』

ラウラ・ガジェゴ・ガルシア／作 松下 直弘／訳 偕成社 2008年 ¥1500(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★☆☆ 中学生★★★

高校★★★★ 一般★★★★

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

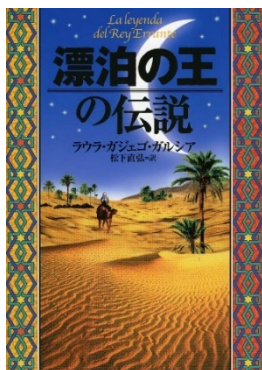
<本の紹介>

砂漠の王国キンダの王子ワリードは、詩の才能にあふれた貧しい絨毯織りハンマードに嫉妬し、「人類の歴史をすべて織り込んだ絨毯を作れ」と難題を押し付けた。何かに取り付かれたかのようにその仕事をやり遂げ、死んでしまったハンマード。そして、完成した絨毯は、この世にはありえない超自然的なものだった。その後絨毯は盗まれ、ワリードは、絨毯を取り戻すために砂漠へと馬を走らせる。

砂漠をさまよい、さまざまな経験をしたワリードが選んだ道は？ 運命に翻弄され、導かれた先に何があるのか？ 読み応えのあるファンタジー作品です。

<子どもに手渡す時のポイント>

大きめの文字でふりがなも多くついていて、読みやすい本です。物語としてもすっきりとわかりやすく、ワリードの冒険にわくわくハラハラしながら一気に読み進めることができますと思います。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。